

《プロジェクト名 需要即応型農業実現計画》

市町村	最上町	対象地域	最上地域	分野	園芸
実施主体名	大沼 寿一	代表者氏名	同左	住所又は主たる事務所 の所在地・連絡先	最上町
実施主体構成	1名				

プロジェクト 目標（5年後）	産出額（増加額）	9,400千円（8,600千円）					
	独自の目標項目	5年後にアイスプラント3,500kg 600万円 おうとう2,000kg 300万円 米40万円。総額940万円					
各年次目標	現 状	1年目（H22）	2年目（H23）	3年目（H24）	4年目（H25）	最終年（H26）	
	産出額	800千円	1,400千円	4,400千円	6,600千円	7,400千円	9,400千円
	独自の 目標項目	25aを畑地化	ハウス2棟10月施工 アイスプラント600kg	ハウス3棟 おうとう雨よけハウス3棟 アイスプラント2400kg	同左 アイスプラント3500kg おうとう150kg	同左 アイスプラント3500kg おうとう700kg	同左 アイスプラント3500kg おうとう2,000kg
プロジェクト 概要	◎実施方針	当面は都市部への商品実現性のある野菜（アイスプラント）を供給し、育成中のおうとうと組合せ、雪国の米作中心から消費者の需要に応じた品目選定型農業で通年契約栽培を行うため、園芸農業の基盤を整備する。					
	○産出額の増大	8,600千円					
	○雇用の創出	347人/日					
	○創意工夫	アイスプラントの生産は、町内で取り組んだものも無く、県内でも事例が少ない。このような状況ではあるが、生産者＝販売者の実現するため、事業経営で培った豊富な経験を活かし、営業活動を展開し、販路の確保を図る。					
	○実現性	大崎市（人口13万人、旧古川地区7万人）を消費地としてとらえ、事業運営で培った人脈で、小売店との販売契約を視野に入れている。さらに近い将来、仙台市（100万人）を主たる消費地と見込んでいる。事業運営は、本事業に取り組むことで生産基盤が整う。事業資金も、補助残額は金融機関との協議で町の創設する利子補給事業需給を計画している。減価償却費を差し引いても目標年次には黒字に転化する。 栽培は、貴重な先駆者と交友があることから、技術指導を受けられる環境があり、不安は無い。					
	○地域への波及 効果	最上町はアスパラガスの栽培で有名であるが、さらにアイスプラントなどの契約栽培が拡大することで、町全体が園芸作物の供給地となり得る。また、新たな品目の拡大は、外食産業や加工食品を手掛ける方の選択肢も増えることになることから、食品産業に携わる方々との連携で最上町内外を問わず食文化の広がりを目指す。					
○その他	食は21世紀のテーマとなり得る問題である。この度は、アイスプラントを主として作付けするが、需要に即応した品目選定の農業手法は、都心部の人口集中に対する農村のあり方を提示することが可能である。						

		実施年度（平成22年度）	実施年度（平成23年度）
事業内容		7.2m×50mハウス2棟一式（施設・設備費、電気、土工事）	7.2m×50mハウス1棟一式（施設・設備費） おうとう雨よけハウス8m×40m3棟